

**平成 3 1 年度**  
**劇場・音楽堂等機能強化推進事業**  
**(共同制作支援事業)**  
**成果報告書**

事業（公演）名	グランドオペラ共同制作 ビゼー作曲 オペラ「カルメン」 全4幕 (フランス語上演・日本語及び英語字幕付)
代表団体名	公益財団法人神奈川芸術文化財団
劇場・音楽堂等の名 称	神奈川県立県民ホール（公益財団法人神奈川芸術文化財団） 愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団） 札幌文化芸術劇場 hitaru（公益財団法人札幌市芸術文化財団）
実演芸術団体等の名 称	公益財団法人東京二期会 公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団 公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団 公益財団法人札幌交響楽団
内 定 額	73,387 (千円)

# 1. 事業概要

## (1) 事業の概要

### 趣旨・目的、ニーズ等

本事業では、国際水準のオペラ上演に適した大舞台を有する神奈川、愛知、札幌の3つの劇場と、日本を代表するオペラ団体である東京二期会、さらに神奈川フィルハーモニー管弦楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団、札幌交響楽団という各地域を代表する演奏団体が、グランドオペラ『カルメン』を共同で制作・上演いたしました。本共同制作により、大劇場ならではのスケールの大きな国際的水準の舞台芸術を各地域で紹介することが可能となり、わが国全体の舞台芸術の水準を上げるとともに、地域の劇場からオペラ鑑賞文化の形成を図ることができたと考えます。

世界中で上演回数が多いオペラ『カルメン』を、神奈川県出身の田尾下哲が鋭い視点で新演出し、ヨーロッパで活躍する英国人デザイナー、マドリン・ボイドが装置・衣裳を手がけ、振付には日本人の母をもつ英国人キミホ・ハルバートを迎え、日本人キャスト、スタッフとともに新たなプロダクションを制作しました。音楽は、世界の歌劇場の信頼も篤いジャン・レイサム＝ケーニック（神奈川公演、愛知公演）と、若手注目株のエリアス・グランディ（札幌公演）の指揮のもと、各地域を拠点に活動するオーケストラが演奏し、二期会合唱団とともに各地域の地元合唱団と児童合唱も参加しました。ソリストはカルメン役の神奈川県出身で世界で活躍する加藤のぞみと、指揮者が推薦するカルメン歌いアグンダ・クラエワのほか、現在考え得る最高の日本人歌手を配し、国籍や活躍の場を越え切磋琢磨しながら、オペラの醍醐味を伝える最高の舞台の創造を目指しました。

全国で3つの地域、全6回の共同制作オペラ公演を実施したことにより、稽古期間、道具、衣裳等の共有、道具製作、運搬費等の経費の節減につながり、規模的にも経費的（旅費含む）にも単独では実現が困難な大規模なオペラ制作が可能となりました。このことは、演奏家にとっても活躍機会の増加、能力の向上をもたらし、また劇場、芸術団体、スタッフの交流も生まれ、制作ノウハウの共有、向上にもつながりました。

劇場、芸術団体が協力し高めあうことは、人材の専門性の向上や、拠点施設の機能強化を推進するとともに、実演芸術鑑賞の地域間格差の解消に貢献するなど、「劇場・音楽堂等の活性化に関する法律」の趣旨にも沿います。また、総合芸術であるオペラを各地域で制作上演することにより、クリエイティブな地域社会の形成に寄与し、文化芸術基本法が掲げる“文化芸術振興のみに留まらない、観光やまちづくり等、新たな価値の創出”にもつながります。さらに、“劇場でオペラを観る”という高水準の舞台芸術に触れる経験は、観客と出演者や舞台制作者達との深い感動の共有に加え、オペラを通して世界の文化を知り、感性を高め、真に豊かな心を育む効果をもたらします。

共同制作支援の助成を得てこそ可能となる、これらの目的を実現し、本事業による日本のオペラ鑑賞者の増大、2019年ラグビーワールドカップ記念、2020年東京オリンピック・パラリンピック文化プログラムの機運醸成等を促し、日本の舞台芸術発展に寄与したものと考えます。

実施日時・実施会場（所在地）・実施回数

2019年10月19日(土)～20日(日)各日14:00 [2回] 神奈川県民ホール

2019年11月2日(土)～3日(日・祝)各日14:00 [2回] 愛知県芸術劇場

2020年1月25日(土)～26日(日)各日14:00 [2回] 札幌文化芸術劇場 hitaru

演目・曲目・幕構成、主な出演者、主なスタッフ、あらすじ等

【演目】ビゼー作曲 オペラ『カルメン』全4幕（フランス語上演・日本語及び英語字幕付）

【あらすじ】

セビリアのタバコ工場で働く魅力的な女性カルメンは、ある日喧嘩騒ぎを起こし、衛兵隊に捕らえられる。衛兵の伍長ドン・ホセを誘惑し、「リリヤス・パステアの酒場で待っている」と言葉を残し逃亡する。カルメンの逃亡補助の罪から釈放されたホセは酒場でカルメンと再会し、愛を告白。それならばとカルメンは彼にすべてを捨てて自分の下に残るようにと求めると、ホセは脱走兵として密輸団に加わる決意をする。しかし、真面目な軍人ホセと自由奔放なカルメンの間には次第に壁が出来始める。そこへカルメンを求める闘牛士エスカミーリョが現れ、カルメンは彼に惹かれていく。やがて、カルメンに見捨てられたホセは、エスカミーリョと彼女の関係を知りながらも、自分との復縁をカルメンに求める。自由を尊ぶカルメンは、それを頑なに拒否。激情したホセはカルメンを刺殺してしまう。

以上のあらすじを基に、今回は舞台を21世紀アメリカのショービジネスの世界に置き換えて上演しました。

【演出】田尾下哲 【装置・衣裳】マドリン・ボイド 【照明】喜多村貴

【振付】キミホ・ハルバート 【合唱指揮】大島義彰

【舞台監督】山田ゆか 【技術監督】菅原多敢弘

【指揮】ジャン・レイサム＝ケーニック（神奈川公演、愛知公演）／エリアス・グランディ（札幌公演）

【管弦楽】神奈川フィルハーモニー管弦楽団（神奈川公演）／名古屋フィルハーモニー交響楽団（愛知公演）  
／札幌交響楽団（札幌公演）

【出演】10月19日・11月2日・2020年1月25日／10月20日・11月3日・2020年1月26日

カルメン：加藤のぞみ／アグンダ・クラエワ

ドン・ホセ：福井敬／城宏憲

エスカミーリョ：今井俊輔／与那城敬

ミカエラ：高橋絵理／嘉目真木子、フラスキータ：清野友香莉／青木エマ

メルセデス：小泉詠子／富岡明子

モラレス：近藤圭／榎貴志 スニガ：斉木健詞／大塚博章

ダンカイロ：大沼徹／加藤宏隆 レメンダード：大川信之／村上公太

合唱：二期会合唱団（全公演）、愛知県芸術劇場合唱団（愛知公演）、  
札幌文化芸術劇場カルメン合唱団（札幌公演）

児童合唱：赤い靴ジュニアコーラス（神奈川公演）、名古屋少年少女合唱団（愛知公演）、  
HBC少年少女合唱団（札幌公演）

事業（公演）の特徴、鑑賞者利用者拡大のための工夫点又は戦略等

【共同制作の拡がり】

今回、平成30年度の神奈川、札幌に加えて愛知が新たなメンバーとなり、共同制作公演に取り組みました。施設がリニューアルした愛知及び神奈川、前年度にこけら落とし公演『アイダ』（平成30年度本補助金対象公演）で全国的に大きな話題となった札幌とともに、各地域から日本のオペラ観客層の拡大に貢献しました。オペラ『カルメン』のようにスケールが大きく、経費もかかるグランドオペラを新演出上演するために、複数の劇場、実演団体が共同制作、連携することで、単独では成し得ない大規模かつ上質なオペラ公演の創造発信を実現しました。

【国際的水準の舞台の創造、国際交流】

世界で実績のあるベテランと若手注目株の外国人指揮者、世界で評価されている日本人演出家、外国人デザイナー、外国人歌手と欧州で活躍中の邦人新人歌手を主役に起用すること等により国際的水準の舞台の創造を実現し、オペラで世界と日本をつなぐことができました。

【若手歌手人材育成】

主役カルメン役には、海外で実績を積み日本で本格デビューする日本人歌手（神奈川出身）を抜擢しました。更に若手歌手育成の目的で、専門機関で学ぶ若手をアンダースタディとして募集し、プロの現場で実践を行うことができる「オペラ歌手育成プログラム」を実施し、またその成果を発表する場（コンサート）を設けるなど、専門人材や劇場というリソースを生かした人材育成プログラムに取り組みました。

【劇場体験インターン】

将来、劇場等で働く希望を持つ学生や若者を対象にした公演制作インターンの受け入れを実施し、また参加劇場・芸術団体間での人材交流、研修、派遣等を通じて公演制作者のスキルアップも図りました。

【関連企画等での地域への波及効果】

オペラの裾野を広げるため、知名度の高い講師を起用した入門講座やプレクチャー、地域の劇場音楽堂、団体との連携による初心者向けミニオペラ上演やプレコンサート実施、演出家、歌手等によるイベント開催等、関連企画を充実させました。学校団体鑑賞、学生席、U25（25歳以下対象チケット）や低価格帯の座席を設けるなど、若年層の来場を促し、若者や初心者からオペラ愛好者まで、幅広い層に対して、公演への興味を喚起させ、理解を深める取り組みを行うとともに、各地域を拠点とするオーケストラの起用、合唱団員の公募、地元で活動する児童合唱の起用を行う等、地域の人々がオペラに参加する機会を提供しました。また、神奈川においては、横浜市や近隣の区と連携した関連企画も実施しました。継続して本共同制作の取り組みを実施することで、県・市町村の枠を超えて地域への芸術文化振興および活性化の波及効果につなげることができました。

【未来の観客層の創造】

本プロダクションでは大胆な読み替え上演で、従来のオペラ概念を超えたオペラの新しい可能性を創造発信したことにより、若い世代の観客や、今までオペラを見たことのない新たな観客を取り込み、未来のオペラ観客層を開拓することができました。

共同制作を行う劇場・音楽堂等、実演芸術団体

- 神奈川県立県民ホール（公益財団法人神奈川芸術文化財団）
- 愛知県芸術劇場（公益財団法人愛知県文化振興事業団）
- 札幌文化芸術劇場 hitaru（公益財団法人札幌市芸術文化財団）
- 公益財団法人東京二期会
- 公益財団法人神奈川フィルハーモニー管弦楽団
- 公益財団法人名古屋フィルハーモニー交響楽団
- 公益財団法人札幌交響楽団

共催者・協賛者・後援者・関係機関

後援：フランス大使館

横浜アーツフェスティバル実行委員会 横浜音祭り2019パートナー事業（神奈川公演）

札幌市、札幌市教育委員会（札幌公演）

協賛：Menicon（愛知公演）

（２）事業の目標値、実績値

実施会場	実施日程	入場者・参加者数	
		目標値	実績値
神奈川県立県民ホール 大ホール	2019年10月19日(土)～20日(日)	目標値	2,728
		実績値	3,292
愛知県芸術劇場 大ホール	2019年11月2日(土)～3日(日・祝)	目標値	2,802
		実績値	1,949
札幌文化芸術劇場 hitaru	2020年1月25日(土)～26日(日)	目標値	2,611
		実績値	3,811
		目標値	
		実績値	
		目標値	
		実績値	
		目標値	
		実績値	

## 2. 自己評価

### (1) 妥当性

自己評価
共同制作支援事業の意図や役割分担など事業が適切に組み立てられた（と認められる）か。
<p>1. 本事業の制作・実施にあたっては、各地域で創造活動を続ける大型拠点劇場と日本を代表する芸術団体が手を組むことにより下記の実現を目的としました。</p> <p>① 現在考え得る最高布陣で世界水準に値する上質なオペラを創造発信する。</p> <p>② それを全国各地で上演することで、首都圏一極集中ではなく地域間格差解消や国民が公平に鑑賞する機会を提供する。</p> <p>2. この目的は実現したものと考えますが、その要因としては、制作・広報面のプロセスにおいて、各劇場と芸術団体が持つ経験、専門知識、ノウハウを結集し、事前の綿密かつ適切な役割分担を行い、相互の信頼関係の基で効率的進行ができたこと、高水準を保ちつつ可能な限り経済的に事業を実施できたことが挙げられます。</p> <p>3. 今回のプロダクションは、舞台設定を19世紀スペインから21世紀アメリカのショービジネスの世界に置き換えた新演出で上演。このような革新的な新演出での上演を成功させることができたことは、単独でなく共同制作だからこそ実現できた成果の一つと言えます。</p> <p>4. 一連のプロセスにおいて齟齬の発生はなく、今回は各地域を拠点とするオーケストラの起用、合唱団の公募、児童合唱を起用、練習内容の共有等、主催7者間の協力体制連携により円滑に遂行ができました。</p> <p>上記の通り、今回の共同制作は本「共同制作支援事業」の「今後へのモデル」の一つになったと自己評価します。</p>
助成に値する文化的、社会的、経済的意義等が継続して認められるか。
<p>助成により下記の通り実現できました。</p> <p>○ 文化的意義</p> <p>日本の芸術水準向上、オペラ界発展に大きく貢献できたと下記の通り自己評価します。</p> <p>① 古典の名作『カルメン』を現代的に解釈し斬新な新演出で上演し、従来のオペラ概念を超えたオペラの新しい可能性を創造発信することができた。</p> <p>② 世界で実績のあるベテランと若手注目株の外国人指揮者、世界で活躍する歌手、ダンサーの起用が可能となった。</p> <p>③ 首都圏一極集中でなく全国3劇場で上演でき、多くの国民にオペラ鑑賞機会を提供。また各地域の芸術団体等を起用することで、参加機会提供と育成にも繋げられた。</p> <p>○ 社会的意義</p> <p>劇場と芸術団体は、芸術文化振興だけでなく多様な社会への関わり、貢献、波及も使命の一つと考え、本事業で取組んだ実施結果を下記の通り自己評価します。</p> <p>① 共生社会・国際化</p> <p>多様な人々が公平に芸術文化を享受できる環境整備、字幕、場内アナウンス、広報物への2ヶ国語表記等、外国人への鑑賞機会提供に努めた。</p> <p>② 人材育成</p> <p>若手歌手・制作者を受入れ創造発信の現場体験の場を提供し、人材育成の社会的役割の一面を担うことができた。</p> <p>③ 地域活性化</p> <p>各地域の芸術団体等の起用、実施により地域企業との連携や経済産業への波及効果が生まれ、地域活力の向上に貢献できた。</p> <p>○ 経済的意義</p> <p>本事業が地域に与える経済的効果も多大であったと下記の通り自己評価します。</p> <p>① 制作プロセスにおいて、主に広報面で情報通信業、印刷・デザイン等製造業・サービス業への効果があった。</p> <p>② 公演期間においては200名超の出演者・スタッフ、鑑賞者が各地に移動し滞在することから、運輸・宿泊・飲食・観光業等への経済波及効果があったと言える。</p>

## (2) 有効性

### 自己評価

目標を達成したか。

#### ○ 目標 1：単独では実現不可能な規模及び国際的水準の上質なオペラ公演の創造発信

各地域の劇場と芸術団体が強力に連携した事により、高い芸術性・革新性・娯楽性を備えた新演出の国際水準の高いオペラ公演が実現しました。観客の満足度は 72.6%で目標値の満足度 80%には及ばなかったが、革新的な読み替えの新演出で、オペラの新たな可能性を追求しました。公演をより深くご理解頂く為の演出家との交流会、字幕の工夫、公演時のプログラム・掲示物等の多くのお客様に満足していただけるように各団体が協力し合い、公演を重ねる度にフォローを行いました。この結果、単独ではなし得ない複数公演だからこそ実現できたオペラ公演となりました。また、専門家の批評内容（「創造性」参照）も上々であり、本目標を達成できたと自己評価します。

#### ○ 目標 2：オペラ鑑賞者の裾野拡大

学生券、25歳以下対象チケットや低価格帯の座席を設け若年層の来場を促した結果、若い世代のオペラ鑑賞者の入場率は前回『アイダ』より上回ることが出来ました。新演出のオペラ公演や振付により、今までオペラを観たことのない新たな若い世代の観客の獲得に繋がりオペラ鑑賞者の裾野拡大に寄与しました。

#### ○ 目標 3：オペラへの興味・関心の促進

初心者からオペラ愛好者まで幅広い層に対しオペラへの理解を深め興味を喚起させる多彩な関連企画を実施し、参加者は3館合わせ2,123人となり、目標の1,300人を超えることが出来ました。また、各地の地元児童合唱団、愛知及び札幌公演での成人の合唱団の参加により、地域の人々のオペラへの参画を創出し、本目標を達成できたといえます。

#### ○ 目標 4：社会への波及効果の創出、話題性の提供

革新的な新演出の公演により、オペラ鑑賞者の視野拡大及び話題性に富んだオペラ公演となり、パブリシティの露出件数が3館合わせて80件で目標値を達成することができました。また、各地での文化芸術振興にとどまらず、大所帯のプロダクションによる人々が各地に出向き滞在することで周辺地域において経済的な効果も創出することに繋がりました。

#### ○ 目標 5：劇場および芸術団体の専門人材育成、スキルアップ

インターンシップとして、8名の学生が参加しました。大規模なオペラの制作現場において、稽古から本番までの過程を体験し、制作スキルの初歩を身につける機会を提供しました。また、共同制作館で33人の職員、専門人材が交流しノウハウを共有した事で、公演制作スタッフのスキルアップに繋がりました。

#### ○ 目標 6：バリアフリー・多言語対応の向上

障害者の客席案内人員（障害者に対する適切な案内を研修等で学んだスタッフ）の配置、チラシ、ホームページ、字幕等の2ヶ国語表記など、多様な社会に対応する取り組みを積極的に行いました。

### (3) 効率性

#### 自己評価

アウトプットに対して、事業期間が適切で、当初の計画通りに進んだか。  
アウトプットに対して、事業費が適切で、当初の計画通りに進んだか。

##### ○ 事業期間

事業期間については、「妥当性」で示した、主催7団体の適切な役割分担をもって、「助成金交付要望書」の「企画・制作スケジュール」に記述した当初のとおり、5カ月の間に神奈川から札幌まで3劇場にて6公演を滞りなく進行および実施することができました。

##### ○ 事業費

事業費の当初予算と決算状況については「実績報告書」に報告したとおりです。「助成金交付要望書」で示した助成対象経費（事業：216,442千円 バリアフリー・多言語対応：3,538千円）のうち助成金要望額としては、当初事業：100,000千円、バリアフリー・多言語対応：2,500千円でしたが、助成金交付決定額は事業：70,887千円、バリアフリー・多言語対応：2,500千円でした。そのため、差額の29,113千円の事業支出減が必要となり、事業期間を通して最後まで主催の全劇場・芸術団体間で情報共有、工夫し削減に努めました。

特に大規模オペラの上演には出演者や舞台スタッフの移動・宿泊に関わる費用も大きな割合を占めるが、主催全7団体の連携・努力により事業費総額の削減に努めました。また、神奈川、愛知、札幌の共同制作館で共通の広報業務を展開したことにより、広報面において全国に広く周知ができ、効率的に経費を抑えることができました。さらに、神奈川、愛知公演での話題性に富んだ公演によって、人々の興味関心を持ってもらい観客の獲得にも繋がったことは、最終公演の札幌では、当初よりも入場料収入が大幅に上回ることができました。このことは、経費削減努力を積極的に行いつつ、共同制作公演だからこそ、可能であり、全3劇場6公演を実施して、多くの国民に観賞機会を提供することが出来たといえます。以上、助成金を効率よく適切に使用できたと自己評価します。さらに、地域の芸術団体や人々の参加（児童合唱団、大人合唱団、スタッフ）、企業協力者を獲得できたことも経費削減に繋がり、同時に地域の活性化にもつなげられたと考えます。



## (4) 創造性

### 自己評価

我が国の実演芸術水準を向上する牽引力となることが期待できる国際的水準の公演であった（と認められる）か。

#### ○ 各劇場・芸術団体の役割

以下のような、各々の専門性やそれぞれの地域特性、ノウハウを総動員することにより、国際的水準のオペラ公演となるように努めました。

・神奈川県民ホール：開館 20 周年時よりオペラの自主制作や共同制作に取り組みノウハウを蓄積しました。本事業でも代表館を務め、適切な役割分担と連携体制を構築しました。（詳細は「妥当性」に記述）

・愛知県芸術劇場：東海圏で本格的なオペラが上演可能な劇場として、国内外からのオペラ団体の公演を数多く受け入れる他、自主制作や共同制作でもオペラ公演を継続的に提供してきた。また、2017 年のグランドオペラ共同制作『ばらの騎士』では、改修休館中の神奈川県民ホールに代わって代表館を務め、共同制作の重要な役割を担いました。

・札幌市文化芸術劇場 hitaru：北海道随一の大型劇場として開館しました。本事業は昨年度の柿落とし公演に続く第 2 弾で期待度も高く、入場券はほぼ完売となり、道内のオペラ観客層のさらなる掘り起こし及び育成に貢献しました。

・東京二期会：日本最大のオペラ団体。ネットワークや制作スキルを駆使して公演制作、共同主催者へのキャスティングの助言、海外のプランナーやアーティストとの調整等の役割を果たしました。

・神奈川フィルハーモニー管弦楽団／名古屋フィルハーモニー交響楽団／札幌交響楽団：いずれも日本を代表する楽団として著名な指揮者との共演実績や海外公演の実績を活かし、本事業でも高水準の演奏を実現しました。

#### ○ 新たな創造活動、キーパーソンの水準

世界で恐らく最も知られ、最も上演回数の多い演目である『カルメン』を共同制作で取り上げるにあたり、開催劇場の担当者などで議論を重ねた結果、オリジナリティに満ちた舞台を目指すことが重要であると考えました。

・舞台製作に際しては、オペラ、ミュージカル、芝居、歌舞伎など幅広い分野で活躍中の演出家・田尾下哲による全く新しく斬新なアイデアを、欧米の主要歌劇場で活躍のイギリスの舞台美術・衣裳デザイナーであるマドリン・ボイドが具象化するというワールドワイドなチームにより新制作に臨みました。

・世界的な百戦錬磨のジャン・レイサム＝ケーニック（神奈川・愛知）と若手エリアス・グランディ（札幌）の好対照な指揮者が各地元オーケストラの潜在的なポテンシャルを引き上げました。出演者には、スペインのバルセロナ歌劇場で研鑽を積み、今回がカルメンデビューとなるバレンシア在住の加藤のぞみを始めとする日本人歌手を中心に国内外で目覚ましい活躍を見せるソリスト達を起用しました。

・国内外においてバレエのみならず様々な舞台作品で振付家として活躍するキミホ・ハルバートらによるダンスも重要な要素とした総合芸術として高水準の舞台を実現し、異なるジャンルのアーティストが舞台芸術を通じて文化交流する貴重な機会としました。また、児童合唱の子どもたちにとっては、キミホ・ハルバートによるダンス等の指導を受けたことは、異なる舞台芸術への関心が喚起されるなど、新たな可能性の拡大に繋がったと言えます。

#### ○ 公演の特徴、工夫点、戦略等は事業概要に記述した通り。

## (4) 創造性

### 自己評価

事業の実施によって、当該劇場・音楽堂等の国内外での評価の向上につながった（と認められる）か。

下記のとおり本事業の芸術性の高さや共同制作の取組み、各地の盛況具合、来場者、参加者の満足度の高さが注目を集めており、各劇場・芸術団体の評価の向上につながったと認められる。

#### ○ マスメディアへの露出

- ・ 東条碩夫（音楽評論家、ブログ「東条碩夫のコンサート日記」より）
- ・ さっぽろ劇場ジャーナル
- ・ 矢代真紀（フリーライター、札幌市民交流プラザ情報誌 WAVE TIMES Vol.10）
- ・ 室田尚子（音楽評論家、ブログ「note」より）
- ・ 小田島久恵（音楽ライター、自身の Twitter より）

#### ○ Twitter での観客の反応より

- ・ 神奈川「現代版としてアレンジされたオペラ『カルメン』、観ていて原作とショービジネスの世界が倒錯し2倍楽しめる。」
- ・ 愛知「昨日と今日ではキャストの各声楽陣の性格付けとか声質も違ったし、今回の演出は中途半端な読み替えではなく細部まで色々徹底されてて感服。」
- ・ 札幌「地元で札幌でカルメンが見られるなんて何という幸せ！」

#### ○ 専門誌等での評価

- ・ モストリー・クラシック 2020年2月号
- ・ 音楽現代 2020年1月号
- ・ ハンナ 2020年冬号